

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピーテラス静岡駅南教室			
○保護者評価実施期間	令和6年12月28日	～	令和7年1月10日	
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	50人	(回答者数)	34人
○従業者評価実施期間	令和7年1月10日	～	令和7年1月15日	
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3人	(回答者数)	3人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	通年にわたったカリキュラムのもと、療育トレーニングの時間を設けている。	<ul style="list-style-type: none"> その日の利用者に合わせて課題を、都度考案している。 タブレットの利用や中高生対象の課題など、ねらいや対象をばった取り組みをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者だけでなく子どもへの聞き取りからニーズをとらえ、充実感、満足感を持てる支援をおこなっていく。
2	利用者の年齢層が幅広く、異年齢のかかわりが充実している。また、児童発達支援から放課後等デイサービスまで長期にわたって支援ができる。	<ul style="list-style-type: none"> 系列の個別対応の児童発達支援事業所から集団の放課後等デイサービスへの移行も多く、情報を引き継ぎながら長期にわたっての支援ができている。 状況や活動プログラムに応じて、グループの年齢層を変えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所間の情報共有を密に取っていく。 異年齢の友達とのかかわりの方がコミュニケーションを発揮できる子も多いため、それが強みとなるようにしていく。
3	保護者からの相談や個別面談の要望に、早急に対応している。	<ul style="list-style-type: none"> 相談があったときにはできる限りその場で回答、助言ができるようにしている。 個別面談の際にも、聞き取りのなかから支援の方向性を導き出せるように努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者とのコミュニケーションや情報共有を常に充実させる。 どの職員も対応できるようスキルアップを図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室のスペースが限られている。	<ul style="list-style-type: none"> 構造上広くすることはできないため、体を動かすなどの活動には制限がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 座学を中心とした取り組みを多くする。 カーテンやパーテーションを使って、スペースを区切って活動をしている。
2	車両での送迎を実施していない。	<ul style="list-style-type: none"> 将来的に自分での公共交通機関を使っての移動ができるようになるため、送迎の設定をしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 近隣の徒歩で行ける学校のみ送迎を実施している。 送迎がないことで、自力で通所ができるようになっていく中高生も多いので、強みともらえている。 現時点では送迎の実施の予定はない。
3	地域とのつながりが希薄である。	<ul style="list-style-type: none"> 送迎がないため、学校との連絡や情報共有の機会が限られている。 地域のこどもとの活動の機会作りや、地域住民への公開などを積極的にしていない。 	<ul style="list-style-type: none"> プライバシーへの配慮や、希望しない保護者も多く、実施に至ってはいない。要望があれば検討をしていく。